

「第 14 回 金田一春彦ことばの学校」を受講して

今村喜子（峡中地区）

私は 9 月 7 日、高根ふれあい交流文化ホールにて「第 14 回 金田一春彦ことばの学校」を受講させて頂きました。今回のテーマは“辞書”でした。当日は厳しい残暑から解放され、木の葉のそよぎに心よい涼気が感じられました。9 時 30 分の開講式では、金田一真澄校長（金田一春彦先生の御長男で慶応義塾大学教授 文学博士）が、「辞書の大切さを再認識して、皆で楽しく語り合いましょう」と挨拶されました。

1 校時は方言川柳、題は“食べる”でした。全国から大人 3010 句、子供 1510 句も投句され、ほのぼのとしたお国言葉の五七五に、情況、心情が思い浮かび言葉の楽しさを存分味わうことができました。

2 校時は「心に響く子守歌」でした。人生の最初に聞きたい歌、最後に聞きたい歌のテーマのもと、五木の子守歌が披露され、辛さや苦しみに耐えている子守娘の境遇が切ない程心に染み込み、哀愁帯びた旋律、歌詞にとっても心を打たれました。

3 校時は辞書の編集をテーマにした小説「船を編む」の著者で直木賞作家の三浦しんさんを招いてのトークショーでした。三浦さんが中学生の時もらった辞書「大辞林」が今でも一番のお気に入りだと話されていました。使い勝手がいいそうです。「大切な人に言葉で思いを伝える、他人の心を知りたいから言葉が使われ続けているのだと思う」とおっしゃっていらっしゃいました。私は言葉へのこだわりを再認識致しました。正しく美しい日本語が身につくように意識してゆこうと思いました。

4 校時は金田一秀穂先生の講義でした。「辞書についてのあれこれ」というテーマのもと、いろんな実例をご紹介して下さりユーモアたっぷり、笑顔いっぱいでお話をして下さいました。「右」はどう表現されていますか？ と会場に投げかけられた時、普通に解りきっているだけに一瞬戸惑うと共に言葉の大切さを再認識致しました。では「左」は？・・・、これとお読みになられた皆様、さっそく辞

書で調べてみてください。

全ての授業を受講させて頂き、やゝ秋の気配を感じさせる涼風、文化の香り、そしていっぱい笑顔に見送られ、帰路につきました。これからも気持ちを素直に伝えられるよう、臨機応変に使いこなせるよう言葉にこだわってゆこうと思います。